



# BIMモデル承認WG

## 2021年度 活動報告

**2022.03**

**一般社団法人 日本建設業連合会**  
**建築生産委員会 BIM部会 施工BIM専門部会**  
**BIMモデル承認ワーキンググループ**

# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

- **今年度のWG活動の経緯と結果**
  - ・ 今年度当初の実施予定と終了時の実績
  - ・ 昨年度提示したスケジュールに対する進捗実績
- **「BIMモデル承認」再考・掘り下げ**
  - ・ 2020年度成果物の振り返り(1)～(4)
  - ・ 「BIMモデル承認」とは
  - ・ 「BIMモデル承認」4つの評価手法
  - ・ 項目抽出と評価 イメージ
  - ・ 「BIMモデル承認」課題(1)～(5)
- **WG活動から考える建設BIMの在り方といくつかの提言**
  - ・ 活動経緯と検討結果…建設BIMの在り方
  - ・ 「BIMモデル承認」検討の結果、生産側からのいくつかの提言
- **今後の活動スケジュール・予定**
- **付：組織・メンバー・今期活動実績**

# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ 今年度のWG活動の経緯と結果

### ◎ 今年度当初の実施予定と終了時の実績

2020年度終了時点

2020年度実績

- 従来のBIMモデル合意との関係性整理とBIMモデル承認の定義
- BIMモデル承認の理想形へ至るフェーズ分けと活動スケジュール策定



2021年度**予定**

- 「BIMモデル承認0.5」と規定した 躯体図自主チェック について掘り下げ
- 同上 躯体図自主チェック におけるデジタル評価手法の検討・試行

2021年度**実績**

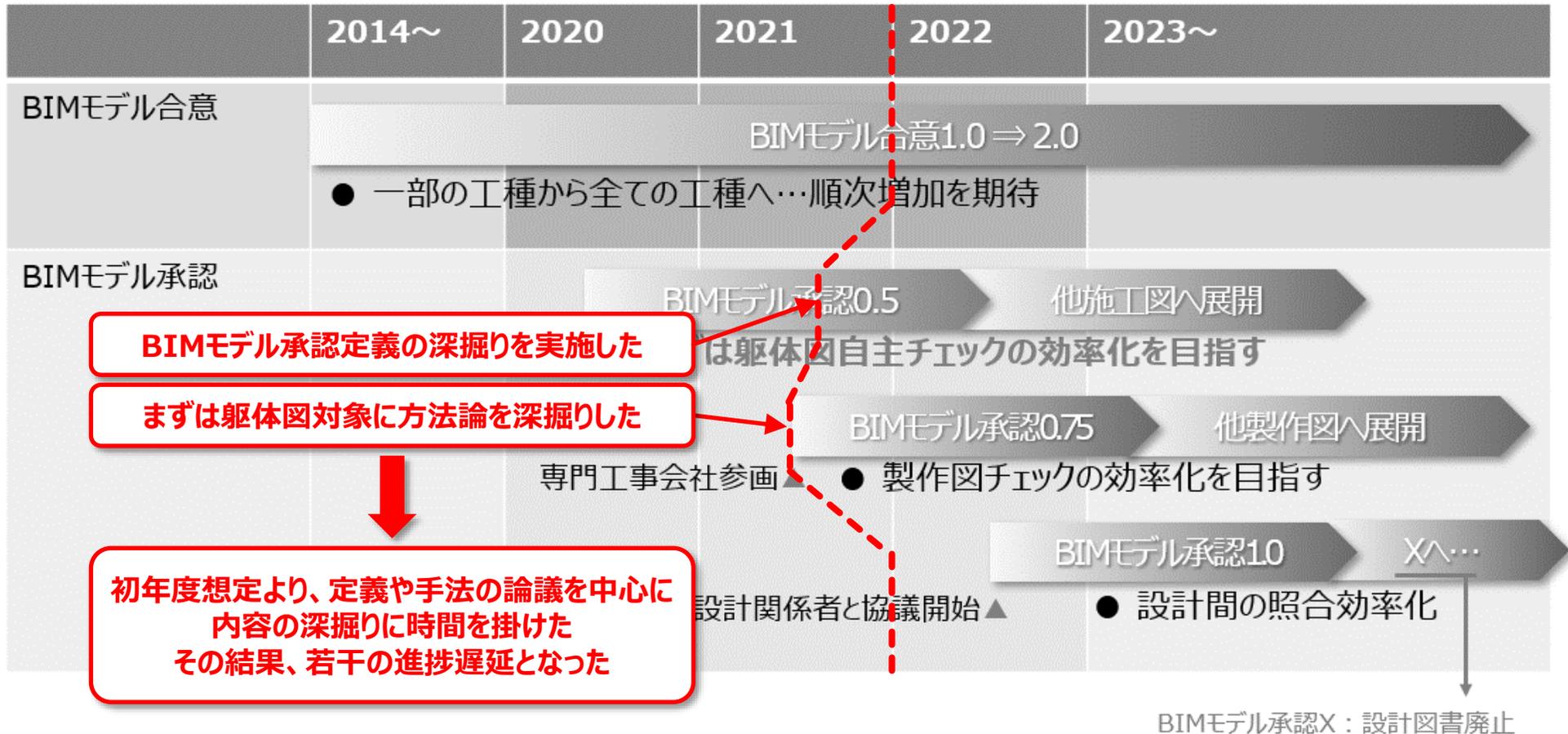
- 2020年度検討内容の振り返り、検討内容の再確認・意識共有  
※ 2020年度 6社6名 から 2021年度 12社13名 に倍増したため
- 「BIMモデル承認」自体の定義の深掘り（再検討・明確化）
- 「BIMモデル承認」手法の検討 … 躯体図を対象として
  - ① 承認対象における**評価項目の抽出・リスト化**
  - ② 評価項目の**評価手法の検討・分類**
- 「BIMモデル承認」成立に必要な環境整備等の提言・提案

2021年度終了時点

# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ 今年度のWG活動の経緯と結果

### ◎ 昨年度提示したスケジュールに対する進捗実績



# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ 「BIMモデル承認」再考・掘り下げ

**設置目的 | BIMモデル合意の次を考える**

■ 『スタイル2014』において提唱

◎ BIMモデル合意：承認関連行為の一部である

- ・ 施工BIMの取り組み目的のひとつ
- ・ 合意形成の一部をBIMを活用し、調整過程で打合せ図面の削減・効率化を図る

従来の合意形成

BIMモデルによる合意形成

異工種間取合部の「見える化」が主目的

この合意形成が「BIMモデル合意」

承認行為は従来通り図面で行う

打合せ用図面

承認

承認

BIMモデルを使って確認・修正することで調整過程の打合せ図面を削減する

従来とBIMモデルによる合意形成の違い

「施工BIMのスタイル2014」P.18より

3

## ◎ 2020年度成果物の振り返り(1)

- ・ 承認関連行為のうち、モデルを用いて「見える化」し、合意形成を図る行動を「BIMモデル合意」と言う
- ・ 承認関連行為のうち、「BIMモデル合意」以外の行為は、従来手法（図面ベース）で行われる
  - これらも全てBIMベースで行われるようになる…
  - ⇒ 「BIMモデル承認」が成立する

**BIMモデル合意の優位性と課題**

■ BIMと図面のハイブリッドではBIMモデルが更新されない

◎ BIMモデル合意

- ・ 優位性 | BIMモデルを活用する理由

分類	利点
BIMモデル	3次元仮想空間での視認性に優れる
図面	寸法の計測や仕様等テキストの確認に優れる

これを利用するのが「BIMモデル合意」

承認関連行為を全てBIMモデルで行う

これが「BIMモデル承認」

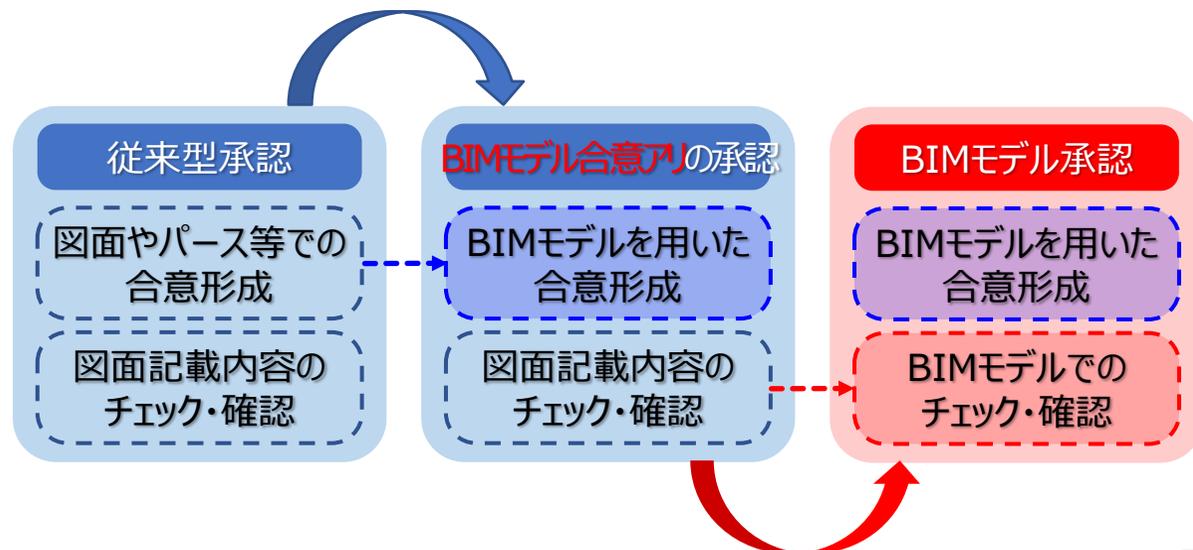
- ・ 課題

課題
① 全ての専門工事がBIMに対応できない
② 最終的に図面での承認となり、モデルが追従しなくなる

これを解消したら「BIMモデル合意2.0」

これを解消したら「BIMモデル承認」

4



# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ 「BIMモデル承認」再考・掘り下げ

### ◎ 2020年度成果物の振り返り(2)

- 「BIMモデル承認」とは…
  - BIMモデルを用いて従来の図面と同等の承認結果を得る手法
  - 理想的には、全てをデジタルで実施するものである
- 「合意形成」に関しては既にBIMを用いた「BIMモデル合意」が定義・提唱されている ⇒ 「合意形成」以外の行為のデジタル化が必要
- 「BIMモデル承認」実現への課題
  - 生産者(ゼネコン)だけでは完結しない  
⇒ **他部門・関係機関との連携が必要**
  - 設計モデル・特記情報や規格・基準類が標準化されていない  
⇒ **標準化・基準整備が必要**
  - 正しさを担保するシステムやツールが無い  
⇒ **業界がオーソライズする手法・規格が必要**
  - 「承認」は公的な行為である  
⇒ 「BIMモデル承認」の**重要性を提唱し、建築界全体でコンセンサス**を得る必要あり

### BIMモデル承認の定義

■ 「BIMモデル承認」の定義と方針

◎ BIMモデル承認

- BIMモデルを用いて従来の図面ものと同様の承認結果を得る手法
- 理想はすべてをデジタルで完了させること

従来と BIM モデルによる合意形成の違い 「施工BIMのスタイル2014」JP\_18より

6

### BIMモデル承認を実現させる課題の整理

■ まだまだ難しそう

◎ 実現が難しい理由

	難 点
①	承認者は設計者であり、「承認」は公的で重要な行為である
②	照合元である「設計図」のデジタル情報化・標準化がされていない
③	「承認」行為の正しさを担保するシステム・ツールが存在しない
④	従来の紙に「レ」点チェックする以外の手法がイメージしにくい…
⑤	設計者・ゼネコン・専門工事会社、設計図・生産図・生産設計図…と関係者・対象が広範に及び全てを対象にするのは困難…

▼

実現に向けてのステップを検討

7

# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ 「BIMモデル承認」再考・掘り下げ

### 実現に向けての作業方針

■ 方針<フェーズわけ>

#### ◎ 「BIMモデル承認」実現に向けての作業フェーズ

承認関連行為の中でフェーズわけ…

① 作 図	申請用図面を作成する	生産者側だけで 検討・対応可能
② 自主チェック	提出前の確認を行う	
③ 承認申請→提出	承認申請・提出を行う	設計者も含めた 検討・対応が必要
④ 設計確認→承認	申請図面を確認、OKであれば承認する	

承認対象(図面種別)でフェーズわけ…

① 生産図A	躯体図	まずは躯体図に フォーカスして進める
② 製作図A	主として躯体図に関連する専門工事会社の製作図	
③ 生産図B	仕上図(平面詳細図・天井伏図 etc…)	手法を躯体図以外に 展開していく
④ 製作図B	主として仕上図に関連する専門工事会社の製作図	

まずは生産者が作成する躯体図にフォーカスし、  
図面自主チェックの効率化のための標準的手法の確立を目指す

8

### ◎ 2020年度成果物の振り返り(3)

・ 実現に向け、フェーズを分けて進めていくこととした

#### 1. 行為でのフェーズ分け

- ① **作図・自主チェック** 生産者側で対応可
- ② 申請・確認・承認 設計者参画必要

#### 2. 対象でのフェーズ分け

- ① **躯体図(生産図)** ゼネコン内で対応可
- ② 製作図 専門工事会社連携
- ③ その他生産図・製作図

### BIMモデル承認の全体像

■ BIMモデル承認全体像イメージ

#### ◎ BIMモデル承認のスタイル



10

承認	フェーズ	検討実施内容	実施年度(予)
0.5	1-① 2-①・③	ゼネコン内、 躯体図自主チェックを対象	2021年度 ～
0.75	1-① 2-②・③	専門工事会社と連携、 製作図チェックを対象	2022年度 ～
1	1-② 2-①～③	設計部門と連携、 設計の承認行為までを対象	2023年度 以降

「BIMモデル承認1.0」は実際の承認行為を対象とするため  
それまでの自主チェックとは扱いの重みが異なる…

# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ 「BIMモデル承認」再考・掘り下げ

### BIMモデル承認 | 当面の目標と方針

■ BIMモデル承認0.5の実現と手法

◎ 「BIMモデル承認0.5」に向けて

- 対象はゼネコンが作成する生産図のうち「**躯体図**」とする
- 申請図に出力しなくても確認・照合し得る **建築情報項目** を検討・抽出する
- 同上BIMソフト上・**デジタル手法**での照合方法を検討・確立する

BIMモデル承認0.5では・・・

図面上でのチェック項目を減らし、図面自主チェックの効率化を目指す

その後順次BIMモデル承認1.0を目指す

9

### 今後の進め方

■ 活動スケジュール(想定)

◎ 活動スケジュール

	2014~	2020	2021	2022	2023~
BIMモデル合意			BIMモデル合意1.0⇒2.0		
			●一部の工種から全ての工種へ…順次増加を期待		
BIMモデル承認			BIMモデル承認0.5	他生産図へ展開	
			●まずは躯体図自主チェックの効率化を目指す		
			BIMモデル承認0.75	他製図図へ展開	
			●製作図チェックの効率化を目指す		
			専門工事会社参画		
			設計関係者と協議開始	BIMモデル承認1.0	X…
				●設計間の照合効率化	
					BIMモデル承認X：設計図書廃止

14

## ◎ 2020年度成果物の振り返り(4)

- 「**BIMモデル承認0.5**」検証実施年度（2021年度）に行うこと

⇒ 承認関連行為のうち、

**図面自主チェック効率化のデジタル手法を検討・確立**する

- ① 確認・照合する**建築情報項目の抽出・整理**
- ② 確認・照合する**デジタル手法の検討・確立**

**掘り下げ**

項目チェックの  
手法検討・区分

構成要素項目  
リスト化

BIMモデル承認

BIMモデルを用いた  
合意形成

BIMモデルでの  
チェック・確認

ここまでの振り返り内容を踏まえながら、  
**「BIMモデル承認」を再規定する**

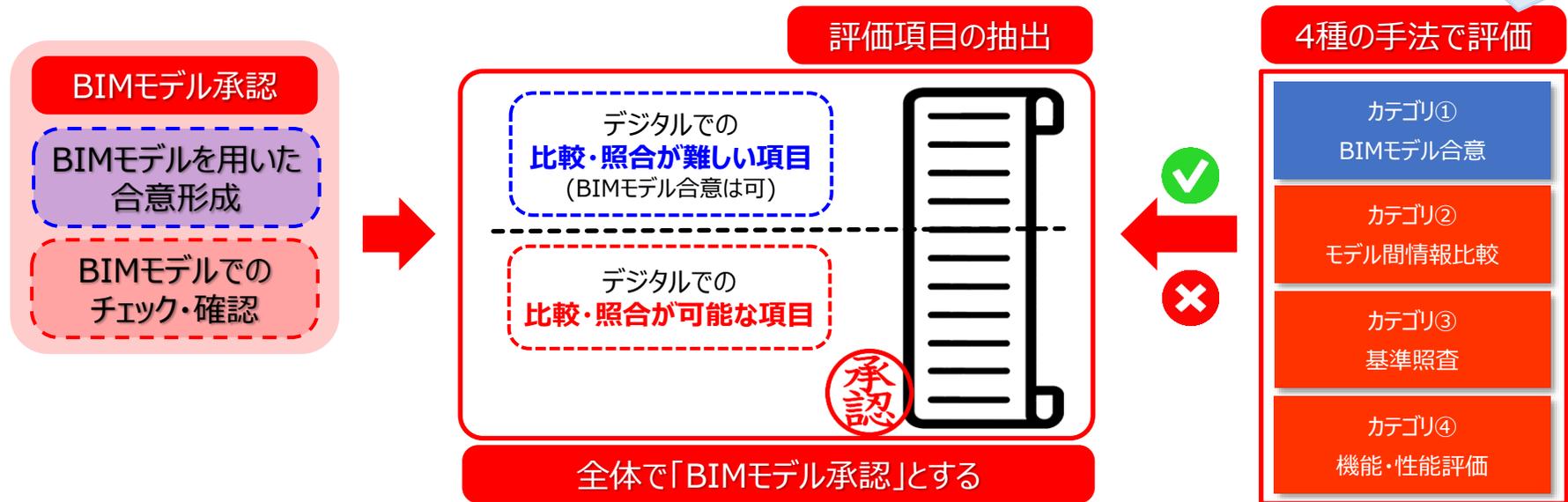
# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ 「BIMモデル承認」再考・掘り下げ

### ◎ 「BIMモデル承認」とは

承認対象を構成する チェックを要する項目 のリスト化 別資料(フロー)参照

評価手法の分類 別資料(別冊)参照



#### 【BIMモデル承認の基本的・汎用的な考え方】

- ① **チェック項目の抽出・リスト化** … 従来承認行為において、図面による承認申請や、サンプル・スケッチ等による合意形成行為で確認・決定されていた項目を、承認対象（一般的には図面）毎に抽出・リスト化する。
- ② **項目毎に適切な手法で評価** … 項目毎に、BIMモデル由来の手法やデータによる比較照合、説明用資料を出力する等の行為を行い、BIMモデルおよび出力された情報の正当性の確認を行う。
- ③ **全体で承認** … それらの行為を経て、リストにある項目全てを**BIM由来の根拠で評価し、全体で承認を得る。**

# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

詳細は  
別資料(別冊)  
を参照

## ■ 「BIMモデル承認」再考・掘り下げ

### ◎ 「BIMモデル承認」4つの評価手法

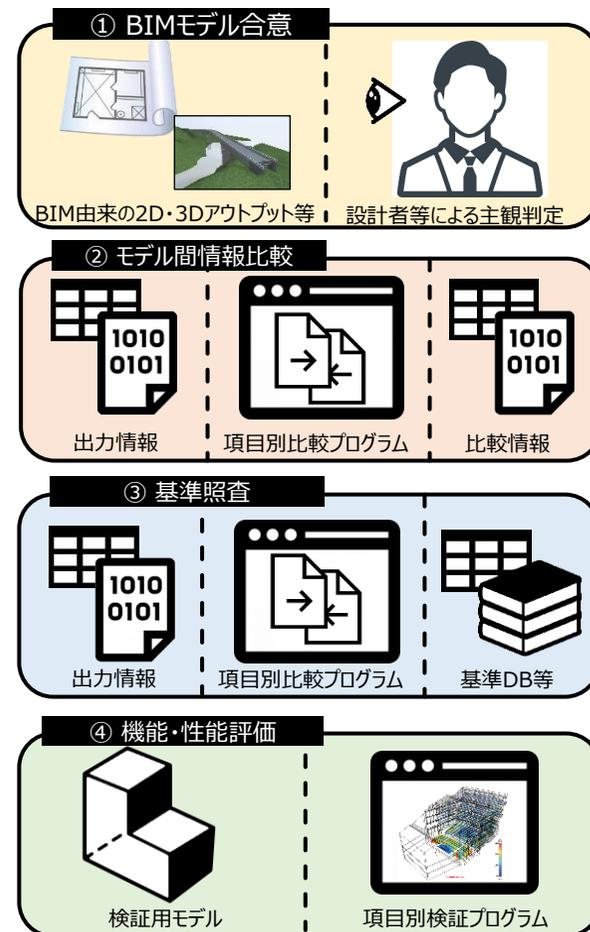
手法区分	手法内容	既知の課題
カテゴリ① BIMモデル合意	承認者による 主観評価を支援	用いる <b>モデルの正しさ</b> の 担保が必要
カテゴリ② モデル間情報比較	BIMモデルから情報抽出し 相互に比較・評価	比較する双方のモデルが 同じ情報を持つ必要性あり <b>モデルの「標準化」</b> 必要
カテゴリ③ 基準照査	BIMモデルから抽出した情報を 基準情報(DB)と照査し 比較評価	照査に用いる基準情報が 比較評価可能な形に 整備される必要あり
カテゴリ④ 機能・性能評価	BIMモデルを検証プログラムで シミュレーション評価	シミュレーション内容毎に 評価プログラムが必要 (まだまだ少ない…)

これら評価や記録・履歴管理等を公正に扱うシステムが必要

これらを実現するために…

- モデル標準化が必要(★特に設計モデル)
- モデルの一貫利用による情報の継承が重要
- 設計情報や公的基準の標準化が必要
- モデルの正しさの担保が必要(★特に照合先モデル)
- 行為の正当性が担保されるシステムが必要

BIMモデル承認WG として 提言 を行う



4つの評価手法 イメージ

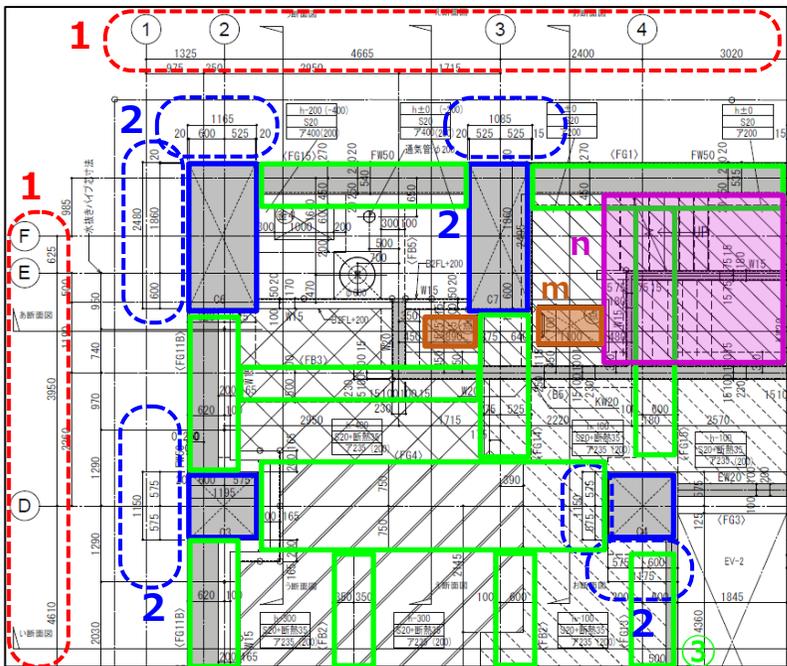
最初はカテゴリ①の項目が多い  
→情報・システム整備に連れてカテゴリ②～④が増えていく

# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

詳細は  
別資料を参照

## ■ 「BIMモデル承認」再考・掘り下げ

### ◎ 項目抽出と評価 イメージ



躯体図(床伏図、BIM出力) 部分イメージ

### ■ 図面構成要素からの抽出項目と出力・評価手法のイメージ

番号	比較評価項目	手法区分	1010 0101 評価対象物 出力形式	評価手法
1	通り芯・階高 名称・寸法	② モデル間 情報比較	建物基本情報 出力フォーマット*1	建物基本情報 判定機能(プログラム)
2	構造躯体-柱 種類・配置・寸法	② モデル間 情報比較	躯体情報 出力フォーマット*2	躯体情報 判定機能(プログラム)
3	構造躯体-基礎梁 種類・配置・寸法	② モデル間 情報比較	躯体情報 出力フォーマット*2	躯体情報 判定機能(プログラム)
:	:	:	:	:
m	床開口 種類・配置・寸法	② モデル間 情報比較	床開口情報 出力フォーマット*3	床開口情報 判定機能(プログラム)
n	階段 各種寸法・規定等	③ 基準照査	階段情報 出力フォーマット*3	対 建築基準法 基準照査機能(プログラム) *4
:	:	:	:	:

- \*1: 新共通フォーマット、もしくは既存フォーマットを部分利用(IFC等)
- \*2: 新共通フォーマット、もしくは既存構造系フォーマットを部分利用(ST-Bridge等)
- \*3: 新共通フォーマット
- \*4: 照査対応のDBが必要…この場合「建築基準法」DB?

#### 【要点】

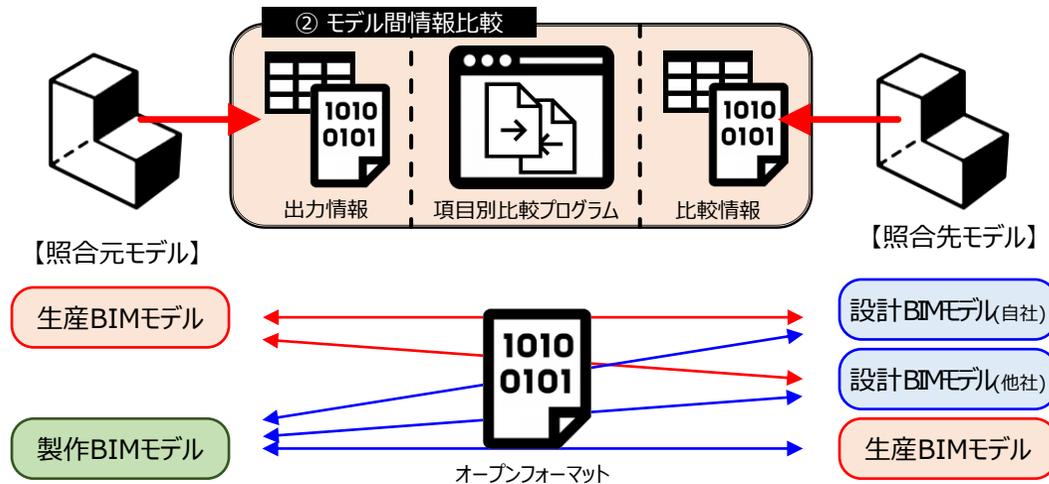
- 図面をチェックしているのではなく、図面に出力されている情報ソースである**BIMモデルの正しさをチェック**している。 **重要!**  
→ 論理的には出力図面の正しさが担保されることになるが、**図面体裁の良否は別**となる点留意。
- **照合先となるBIMモデル・基準DBの正しさ**が担保されないと、この比較結果の正しさも担保されない。 **重要!**

# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ 「BIMモデル承認」再考・掘り下げ

### ◎ 「BIMモデル承認」課題(1)

	既知の課題	課題の内容
1	<b>モデルの標準化</b>	比較する双方のモデルが同じ情報項目を持つ必要あり
2	モデル・情報の一貫利用	設計フェーズの情報を後のフェーズまで継承し利用する考え方が重要で効果的
3	基準類の情報化・標準化	照査に用いる基準類がデジタル処理による比較評価可能な形で整備される必要あり
4	モデルの真正性の担保	評価に用いるモデルが正しい状態であることが必要
5	信頼できる承認システム	これらデジタルによる評価、行為の記録・履歴管理を公正に扱えるプログラムシステムが必要



制作者や制作フェーズの違うモデル同士を比較するためには、  
**同じ種別の情報を、比較可能な形式で持つ必要がある**

#### 【課題】

- 比較に用いるBIMモデルは、同じ種別の情報を持つ必要がある。  
⇒ **BIMモデルの標準化**が必要
- 異なるソフトから出力した同じ種別の情報同士が、比較に用いられる必要がある。  
⇒ **標準化された情報出力形式**が必要

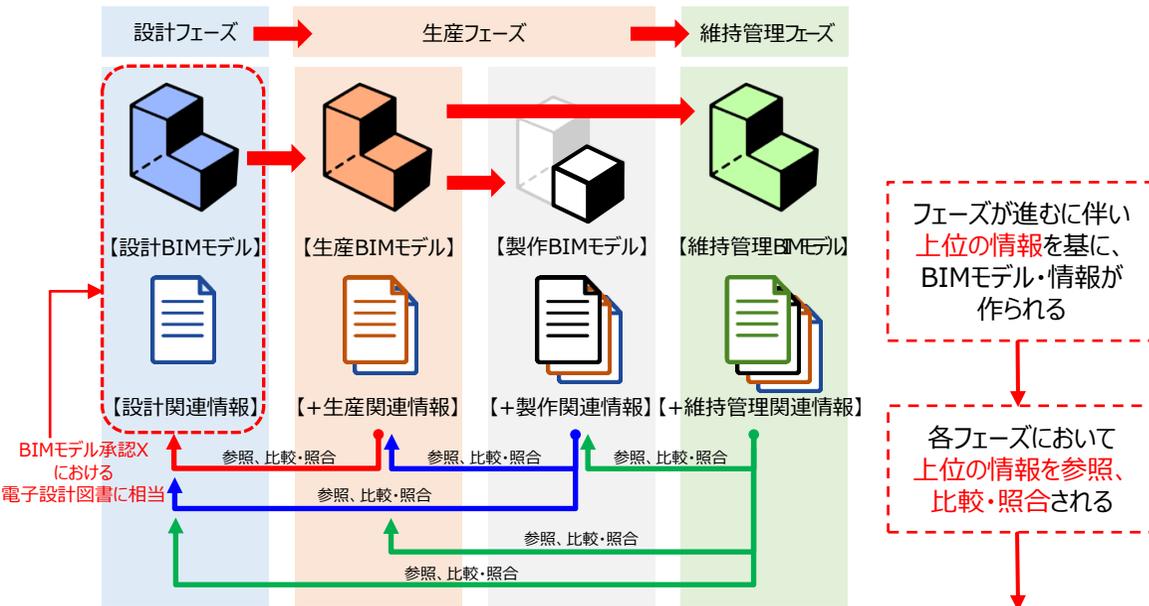
**業界全体であらゆる標準化が必要** 提言!

# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ 「BIMモデル承認」再考・掘り下げ

### ◎ 「BIMモデル承認」課題(2)

	既知の課題	課題の内容
1	モデルの標準化	比較する双方のモデルが同じ情報項目を持つ必要あり
2	<b>モデル・情報の一貫利用</b>	設計フェーズの情報を後のフェーズまで継承し利用する考え方が重要で効果的
3	基準類の情報化・標準化	照査に用いる基準類がデジタル処理による比較評価可能な形で整備される必要あり
4	モデルの真正性の担保	評価に用いるモデルが正しい状態であることが必要
5	信頼できる承認システム	これらデジタルによる評価、行為の記録・履歴管理を公正に扱えるプログラムシステムが必要



#### 【課題】

- 比較に用いるBIMモデルは、同じ種別の情報を持つ必要がある。  
⇒ **BIMモデルの標準化**が必要
- フェーズの進行に伴い上位情報を基にBIMモデルが整備され、参照の上比較・評価される。  
⇒ **BIMモデル基盤・先行ワークフローの確立**  
**BIMモデル・情報の継承、一貫利用**が合理的  
**照合先BIMモデルの正しさの担保**が必要

上位フェーズの情報を基にBIMモデル・情報が作られ、それらを参照、比較・照合するなら  
**BIMモデル・情報の継承による一貫利用が合理的**

**設計BIMモデルの標準化・整備を進め  
情報を継承したBIMモデル一貫利用が理想**

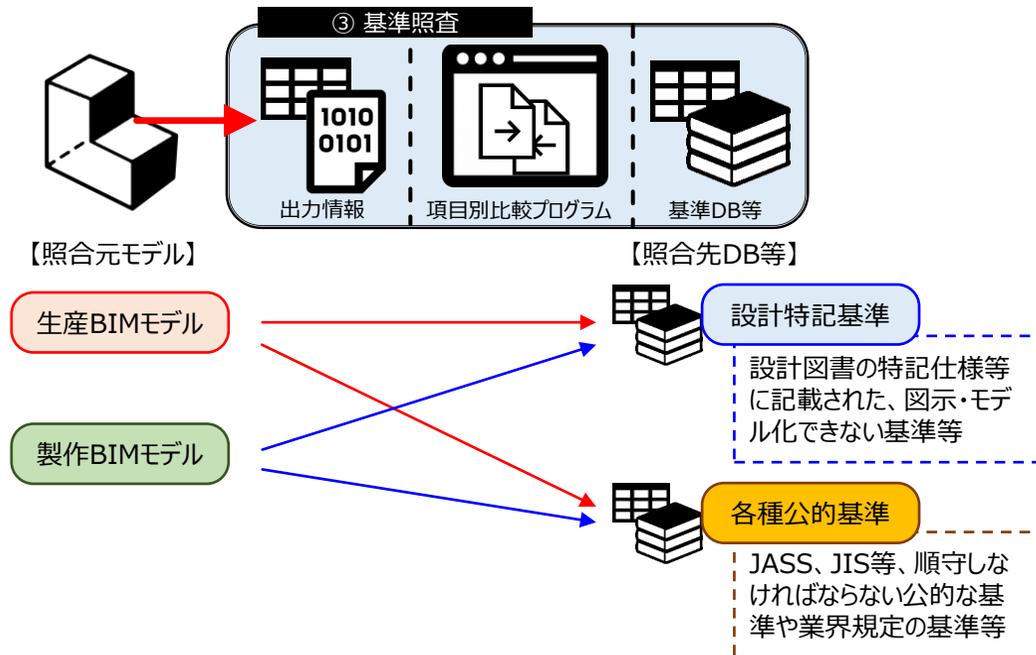
提言!

# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ 「BIMモデル承認」再考・掘り下げ

### ◎ 「BIMモデル承認」課題(3)

	既知の課題	課題の内容
1	モデルの標準化	比較する双方のモデルが同じ情報項目を持つ必要あり
2	モデル・情報の一貫利用	設計フェーズの情報を後のフェーズまで継承し利用する考え方が重要で効果的
3	<b>基準類の情報化・標準化</b>	照査に用いる基準類がデジタル処理による比較評価可能な形で整備される必要あり
4	モデルの真正性の担保	評価に用いるモデルが正しい状態であることが必要
5	信頼できる承認システム	これらデジタルによる評価、行為の記録・履歴管理を公正に扱えるプログラムシステムが必要



#### 【課題】

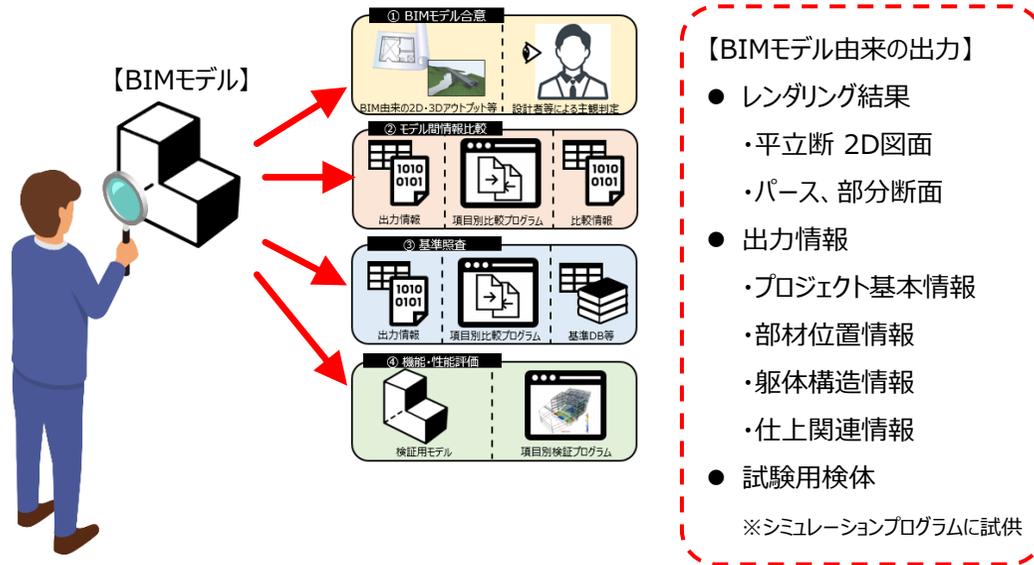
- モデル化・図示できない、デジタル処理による比較評価が必要な**基準値等の情報化・整備**が必要。
- 設計情報のうち、モデルに表現されない情報（特記仕様など文言で書かれる数値等）は、設計BIMモデルの標準化と並行の整備が望まれる。  
⇒ **「デジタル特記仕様」の整備** が必要 **提言!**
- JASS、JIS等、工種別の業界団体等が規定する、施工・製作時に参照される公的な基準等の情報化・整備が必要。  
⇒ **公的基準等の情報化・整備**が必要 **提言!**

# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ 「BIMモデル承認」再考・掘り下げ

### ◎ 「BIMモデル承認」課題(4)

	既知の課題	課題の内容
1	モデルの標準化	比較する双方のモデルが同じ情報項目を持つ必要あり
2	モデル・情報の一貫利用	設計フェーズの情報を後のフェーズまで継承し利用する考え方が重要で効果的
3	基準類の情報化・標準化	照査に用いる基準類がデジタル処理による比較評価可能な形で整備される必要あり
4	<b>モデルの真正性の担保</b>	評価に用いるモデルが正しい状態であることが必要
5	信頼できる承認システム	これらデジタルによる評価、行為の記録・履歴管理を公正に扱えるプログラムシステムが必要



#### 【課題】

- 比較・評価に供する情報の出力元となるBIMモデルは、正しい情報により作られていなければ、比較・評価に利用できない。**特に比較照合先のモデルの正しさが重要。**
  - ⇒ 特に**設計BIMモデルの正しさ**の担保が重要 **提言!**
- 常に正しさが担保されたモデルが比較に供される必要あり。
  - ⇒ 常に**正しさが保たれる管理機能**が必要

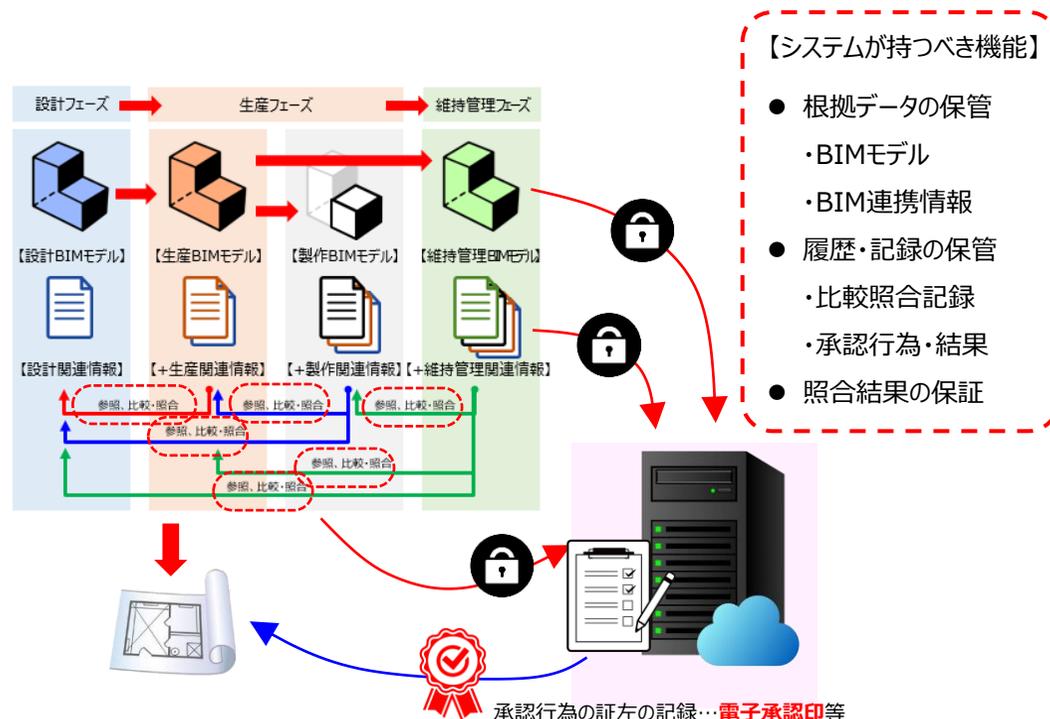
BIMモデルからの出力情報を比較・評価に使うには、BIMモデルが  
**「正しく作られていなければならない」**

# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ 「BIMモデル承認」再考・掘り下げ

### ◎ 「BIMモデル承認」課題(5)

	既知の課題	課題の内容
1	モデルの標準化	比較する双方のモデルが同じ情報項目を持つ必要あり
2	モデル・情報の一貫利用	設計フェーズの情報を後のフェーズまで継承し利用する考え方が重要で効果的
3	基準類の情報化・標準化	照査に用いる基準類がデジタル処理による比較評価可能な形で整備される必要あり
4	モデルの真正性の担保	評価に用いるモデルが正しい状態であることが必要
5	<b>信頼できる承認システム</b>	これらデジタルによる評価、行為の記録・履歴管理を公正に扱えるプログラムシステムが必要



#### 【課題】

- 数多く存在する比較照合項目と手法の組合せをすべて手作業で個別に実施するのは困難、システムマッチに効率的に実施されることが肝要…。
- 比較照合に用いられるモデル等の根拠情報や、その評価結果は改ざんの恐れなく保管され、また評価された結果は正しいものと保証されなければならない。
- 異なるBIMソフトウェアからの出力を等しく取り扱える必要あり。

⇒ 業界に**オーソライズされたシステム**が必要 **提言!**

# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ WG活動から考える建設BIMの在り方といくつかの提言

### ◎ 活動経緯と検討結果…建設BIMの在り方

2014年 日建連「BIMモデル合意」提唱



2020年 日建連「BIMモデル承認」検討 開始



2021年 「BIMモデル承認」定義と詳細 報告

- 承認行為の一部にBIMモデルによる合意形成手法を導入することを提唱  
… その他の承認行為はまだ電子化できない手法が多い …
- WGを発足させ、生産の立場から「BIMモデル承認」の検討を開始  
… BIMモデル承認の概要とWG活動のスケジュール案を策定 …
- 2年間の検討を経て「BIMモデル承認」の定義と詳細についてとりまとめ  
… 生産側の立場から**業界でのBIMの在り方**や**課題**を再認識 …

- 「BIMモデル承認」とは**従来図面で行っていた手法**を、**BIM由来の情報に基づくものに**変える****ことで成立する



- 従来の **設計図書** が **設計BIMモデル・関連情報(DB)** に、**アナログな照合方法**が **デジタル手法** に**置き換わる**

- 建設に関わるあらゆる情報は、BIMを基盤とし、BIMと連携したものとして作成・運用されることが望ましい。 **重要!**
- それら情報は、設計⇒生産・製作⇒維持運用…と異なるフェーズ間でも一貫利用されることが望ましい。 **重要!**
- それら情報は使用ソフト等の環境差を問わず、共通のワークフローを正しく流れることが望ましい。 **重要!**

**建設業全体で手法を共有することで、業界全体で生産性の向上が図られる**

# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ WG活動から考える建設BIMの在り方といくつかの提言

### ◎ 「BIMモデル承認」検討の結果、生産側からのいくつかの提言

- 従来の **設計図書** が **設計BIMモデル・関連情報(DB)** に、**アナログな照合方法**が **デジタル手法** に**置き換わる**
  - ・ 建設に関わるあらゆる情報は、BIMを基盤とし、BIMと連携したものとして作成・運用されることが望ましい。
  - ・ それら情報は、**設計→生産・製作→維持運用**・・・と異なるフェーズ間でも一貫利用されることが望ましい。
  - ・ それら情報は使用ソフト等の環境差を問わず、共通のワークフローを正しく流れることが望ましい。

**建設業全体で手法を共有することで、業界全体で生産性の向上が図られる**



#### 【提言】

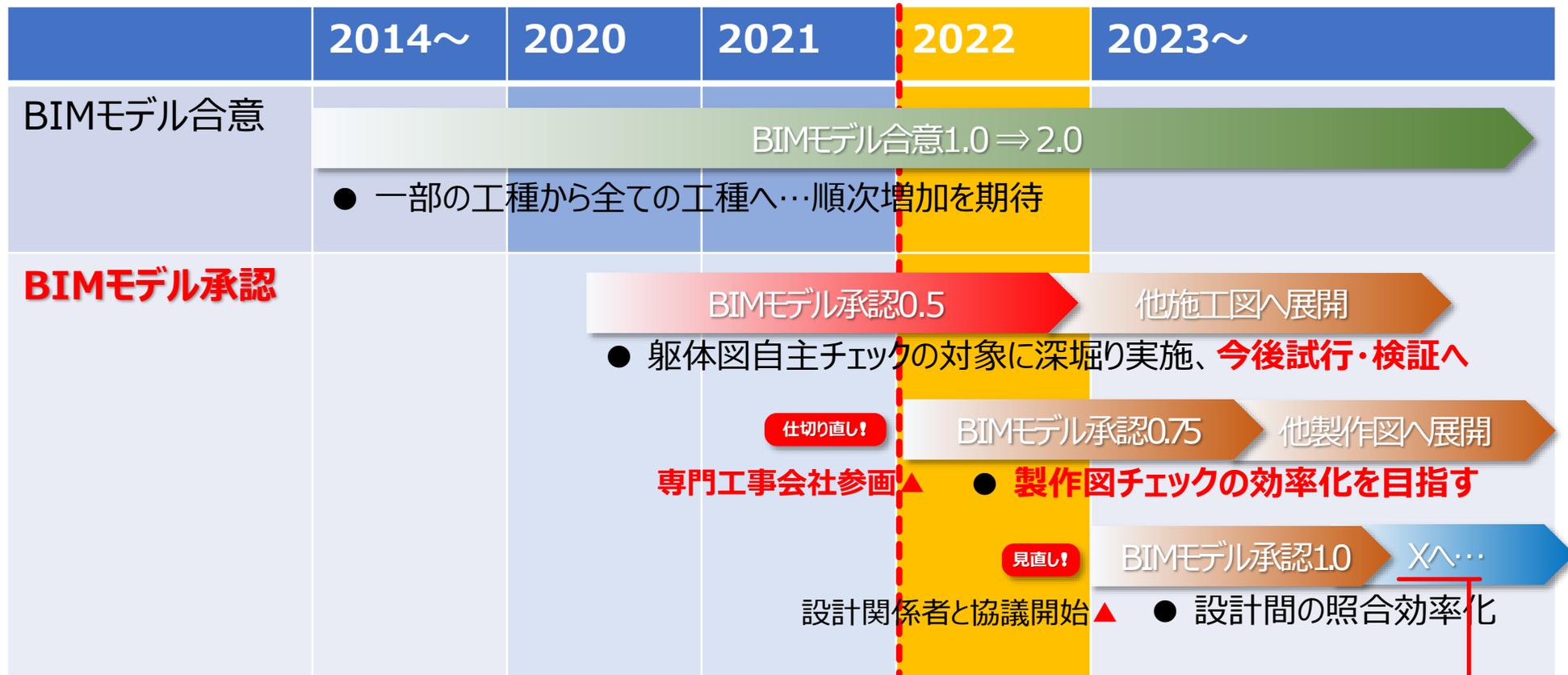
- ・ 関係する**あらゆるものの標準化**が必要 …BIMモデル、建設関連情報、工種・工程、建設材料種別 etc…
- ・ 設計段階から維持運用段階までモデル・情報が**継承され一貫利用**されることが不可欠
  - ➡ まずは**設計BIMモデルの標準化と設計情報の電子化**が必要
- ・ JASSやJISなどの**公的基準**等も、デジタルによる参照利用が可能な**電子情報化・整備**が必要
- ・ どの段階でも、BIMモデル・関連情報が「**正しいもの**」であることが**保証される仕組み**が必要
- ・ これらを担保するには、これらを管理する**システムの存在**が不可欠

**業界全体での早急な 情報の標準化 と 手法の電子化 が必要です**

# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ 今後の活動スケジュール・予定

### ◎ 活動スケジュール … 若干見直し

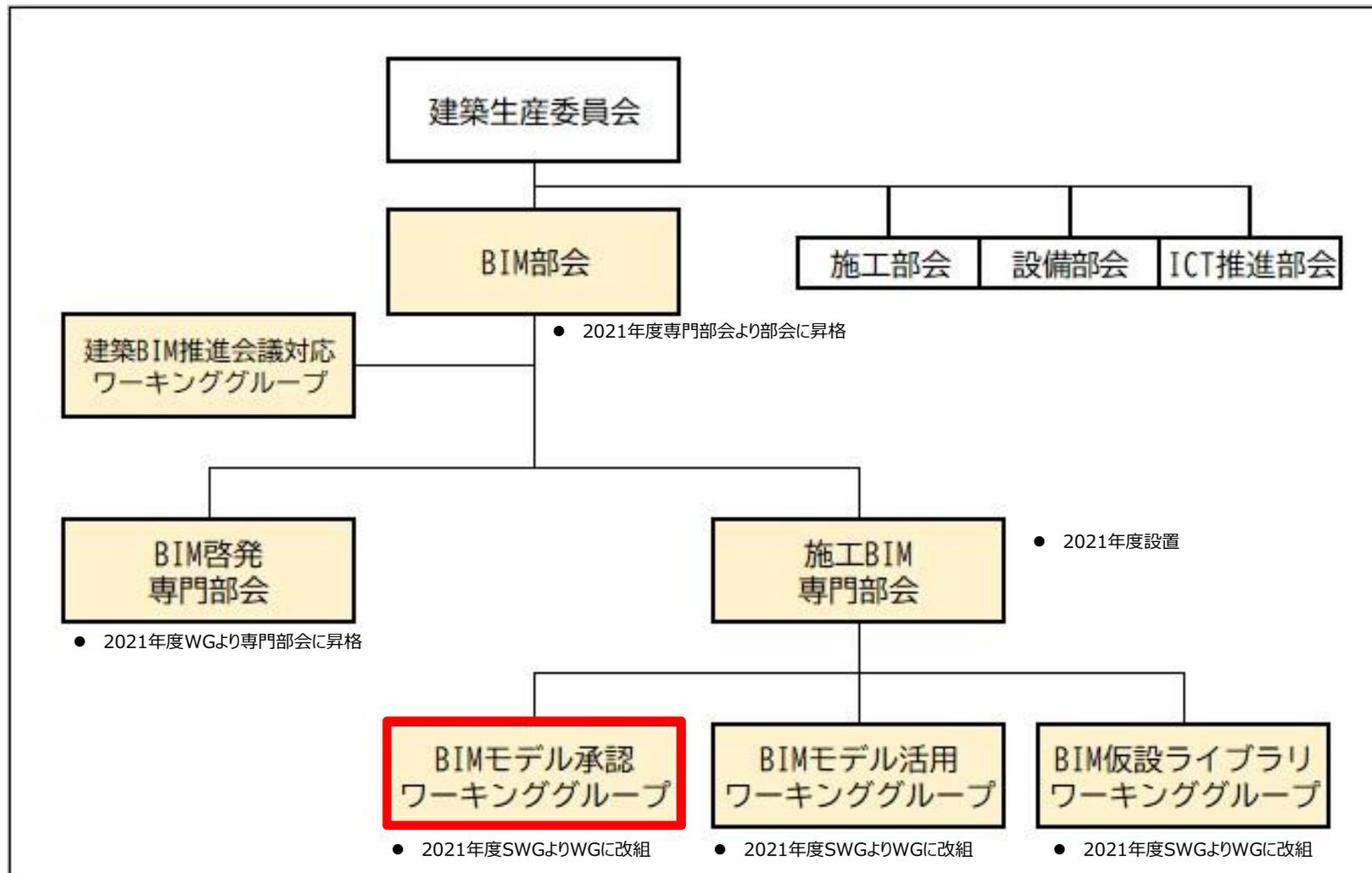


BIMモデル承認X：設計図書廃止

# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ 付：組織、メンバー、今期活動実績

### ◎ 組織



# BIMモデル承認WG 2021年度 活動報告

## ■ 付：組織、メンバー、今期活動実績

### ◎ メンバー(14名) \*社名順

鬼木 順一	株式会社 安藤・間
塩坂 靖彦	株式会社 大林組 (WGリーダー)
垣内 延介	株式会社 大林組 (2021.08～)
安井 好広	鹿島建設 株式会社
遠藤 元樹	株式会社 熊谷組
内田 公平	株式会社 鴻池組
大西 このみ	五洋建設 株式会社 (~2021.12)
山崎 優也	五洋建設 株式会社 (2021.12～)
三戸 景資	清水建設 株式会社
堀口 衛	大成建設 株式会社 (検討グループAリーダー、WGサブリーダー)
河田 英文	戸田建設 株式会社 (検討グループAサブリーダー)
藤井 周太	前田建設工業 株式会社 (検討グループBリーダー、WGサブリーダー)
鈴木 翔	三井住友建設 株式会社
井上 智揮	株式会社 フジタ (検討グループBサブリーダー)

### ◎ 今期活動実績

- WGミーティング 全14回 (内2回を除きオンライン会議)
- グループリーダー会 全18回 (内1回を除きオンライン会議)
- グループ会 2グループ、双方複数回開催 (オンライン会議)

